

広島大学 高等教育研究開発センター 大学論集
第 35 集 (2004年度) 2005年 3月発行：193-205

大学教育カリキュラムの国際化

—中国の事例研究—

黄 福 涛

大学教育カリキュラムの国際化

—中国の事例研究—

黄 福 涛*

はじめに

これまで高等教育の国際化に関する研究においては、留学生をはじめとする国境を越えた人的流動についての成果が多かったが、学士課程カリキュラムの国際化についての研究はまだ不十分である。しかし、学士課程カリキュラムの国際化は、1990年代以来のグローバル化の進展に伴い、各国における高等教育改革や高等教育の国際化の重要な内容であり、またその実態を解明することは、ある意味で一国の大学教育の門戸がどのぐらい世界に開放されてきたのかを明らかにすることになる。特に、中国の場合、学士課程カリキュラムの国際化は、世界に大学教育の門戸がどの程度開放されているかを測る一つの指標となるだけでなく、近年、世界一流大学の創立、中国の高等教育の通用性、国際性の向上を目指し、国際的な人材の育成を実現する重要な手段の一つとしても見なされている。従って、本稿は、主に1990年代以来の中国における学士課程カリキュラムの国際化の実態を考察することを通して、中国における高等教育の世界に対する開放度を検討することを目的とする。具体的には、まず、学士課程カリキュラムの履修対象、種類・類型と担当組織などについて、それぞれ留学生と中国人学生向けの学士課程カリキュラムの実態及び国際化のプロセスを解明する。次に、若干の大学の事例に基づいて、留学生が履修できる学士課程カリキュラムが全学のそれに占める比率及び国際化された学士課程カリキュラムが全学のそれに占める比率などのデータに基づいて、中国における学士課程カリキュラムの国際化の特徴、類型及び程度を検討してみる。

1. 先行研究と分析視点

(1) 先行研究

大学教育カリキュラムの国際化は、高等教育の国際化の一環として、少なくとも18世紀後期のヨーロッパにおいて近代大学が成立してから行われてきている。しかし、1990年代初期までは、留学生や学者などの国際的な人的流動が高等教育の国際化の主要な形態であり、大学教育カリキュラムの国際化は、あくまでも少数の国・地域に限定されており、規模が小さく偶然的な現象だったと言える¹⁾。1980年代後半から、エラスムス計画をはじめとしたEU諸国における大学間の単位互換、資格・学位などの相互認定及びEU諸国における統一労働市場の形成に伴い、大学カリキュラムの国際化に関する研究が盛んに展開されてきた。その中で、1994年にOECD/CERIの研究グループによ

* 広島大学高等教育研究開発センター助教授

る国際化されたカリキュラムの定義や仮説的類型に関する先行研究は今でも広く引用されている。具体的には、大学カリキュラムの国際化について、次のように定義されている。すなわち「外国人留学生だけでなく、自国学生をも対象とし、国際的及び多文化的文脈において（専門的・社会的に）活躍できるよう学生を教育することをねらってデザインされ、国際的志向の内容をもつ科目群から成るカリキュラムを編成・実施するプロセスである。また、国際化されたカリキュラムの類型については、次のような九つの仮説的類型をまとめている。すなわち(1)国際的な内容をもつ科目群を含むカリキュラム、(2)従来からある科目であるが、国際・比較接近法を加えることによって内容的に拡大された科目群を含むカリキュラム、(3)国際的専門職を目的として学生を教育するカリキュラム、(4)異文化間コミュニケーションの諸問題への対応や異文化間相互作用技能の訓練を目的とする外国語教育もしくは言語学のカリキュラム、(5)複数地域をカバーする地域研究 (area studies)・広域研究 (regional studies) といった学際的プログラム、(6)国際的に認められた専門的職業資格取得のためのカリキュラム、(7)合同学位・二重学位取得のためのカリキュラム、(8)必修科目の一部を外国の大学において取得させるカリキュラム、(9)特に外国人留学生のために設けられたカリキュラムである²⁾。そのほか、オランダのvan de Wendeもオランダのケースを中心に、カリキュラムの国際化に関する研究枠組みについて詳しく述べている。Wendeは、主に高等教育機関における国際化されたカリキュラムの数量・規模、担当組織及びそれらに影響する要因などのアプローチから、オランダの高等教育カリキュラムの国際化に関する実態、問題点及び改善すべきところなどを取り上げている。Wendeの研究枠組みとアプローチ及び研究成果は、1996年にOECDによって刊行された『高等教育の国際化』(OECD DOCUMENT Internationalisation of Higher Education, OECD 1996. Head of Publications Service, OECD. Paris, France.)に収録されており、以来、大学カリキュラムの国際化に関する研究に大きなインパクトを与えるようになった³⁾。

(2) 分析視点

以上のような先行研究成果に基づいて、本稿では、学士課程カリキュラムの国際化とは、主に外国人学生と中国人学生を対象に、他国・地域の事情、異文化に関連し、あるいはその結果としての資格や学位が世界的に通用するようなカリキュラムの編成・実施を行うプロセスであると規定する。また学士課程カリキュラムという概念は、ある学問分野や専攻において、学士学位の獲得を目的として系統的に開設される教育課程や科目群を意味するだけでなく、その中の一部であり、学位や資格、証書が授与されない短期コース、プログラム、あるいは一つの科目なども指している。

2. 国際化されたカリキュラムの実態及び変化

上述したように、国際化されたカリキュラムは、履修対象によって、大きく外国人学生を対象とするもの（留学生、しかし香港、マカオ、台湾の出身で中国の大学で勉強した学生は含まない）と中国人学生を対象とするものの二つの種類に分けられる。まず、以下で、1990年から2000年までの外国人留学生向けのカリキュラムの変化と実態について取り上げてみる。

(1) 留学生向けカリキュラムの国際化

中国の大学において、外国人留学生向けのカリキュラムは、中国人学生と同じクラスで受ける科目と留学生だけを対象に開設される科目という大きく二つの種類からなっている。前者は、厳密には必ずしも「特に外国留学生のために設けられたカリキュラム」という仮説的類型にあたらないが、その一部がいかに変化したかによって、中国における大学カリキュラムの門戸が外国人留学生にどのぐらい開放されてきたかを測ることができるので、あえて広義の国際化されたカリキュラムと規定する。後者は狭義の国際化されたカリキュラムと考える。

中華人民共和国建国直後の1950年から、中国における外国人留学生教育が始まった。当時の留学生教育は、東欧とアジアなどの社会主義諸国及びアフリカ諸国出身で、政府間の交換留学生協定に基づいて中国政府からの助成金を受けた少数の外国人留学生を対象に中国語、中国史及び中国革命史などが教授された⁴⁾。つまり、当時の留学生教育は、基本的には新中国の政治、外交の一環として実施された。

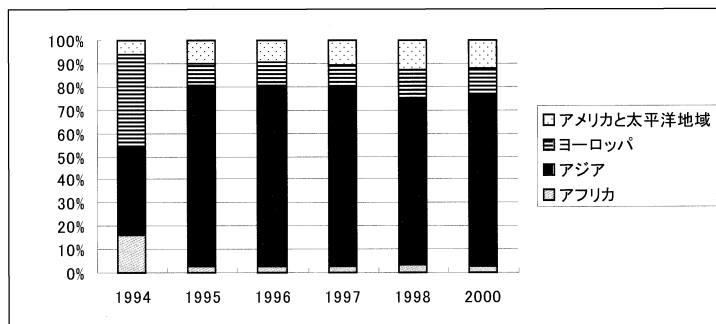
しかし、1970年代後半、特に1990年代以降、外国人留学生向けのカリキュラムには、量的にも、内容的にも大きな変化が起きた。

第1に、履修対象から見ると、1990年から2000年まで、地域別には、図1が示すように、アジア諸国からの留学生が連続的にトップを占めており、特に1995年以降、全体の約70%であった。次にヨーロッパ諸国からの留学生が続ぎ、アメリカからの留学生が三番目であった。また、国別で見ると、この10年間では、日本、韓国、アメリカからの留学生が、上位の三番目までを占めている。そのうち、日本と韓国からの留学生が顕著に多く、特に1990年代後半以降は、ほぼ毎年、留学生全体の約70%を占めている。近年、中国の大学における留学生向けのカリキュラムは、基本的にはアジア諸国、特に同じ漢字文化圏の日本と韓国からの留学生を対象に提供されていると言ってよい。

第2に、カリキュラムの種類を見てみると、留学生向けのカリキュラムは大きく学歴教育科目と非学歴教育科目に分けられているが、ここでは、学士課程カリキュラムを含め、学歴教育科目だけについて検討してみよう。

1990年に学歴教育科目を受けた留学生はわずか252人で、全留学生数の4.0%しか占めていなかった

図1. 1990～2000年における留学生構成比の推移（地域別）



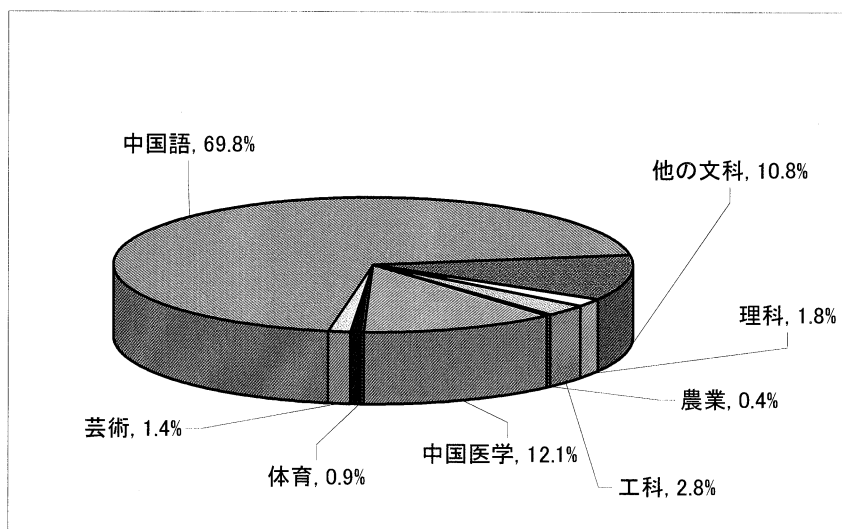
出典：中国教育年鑑編輯部編『中国教育年鑑』1995,1996,1997,1998,1999,2001各年版,人民教育出版社。

た。多くの留学生は研修生や研究生などの身分で、短期コースを受けていた⁵⁾。それに対して、2000年には、学歴教育科目を受けた人数が13,703人に増えており、全留学生数の38.4%を占めるに至った⁶⁾。また、学士、修士、博士という学位種類別からみると、1990年代初期、留学生向けの科目はほとんど学士学位レベルであった。例えば、修士と博士課程に進学した留学生の比率は全留学生の10%以下だったのに対して⁷⁾、2000年にはその比率は20%以上を占めるまでになった。

第3に、専門分野別について見ると、1990年初期、留学生向けのカリキュラムは、アフリカ諸国からの留学生を対象に、少数の農業、医学、建築及び紡織などの科目を一部提供する以外、その多くは中国語及び関連科目であった。例えば、1990年の時点では、6,291人の留学生のうち、他の分野の正規学位を得られる科目を履修した留学生は252人しかいなかった。残りの留学生はすべて中国語や文学、歴史などの科目を履修した⁸⁾。近年、多くの大学で、留学生に向けて中国語と関連科目以外に、経済、管理、法律、国際政治、英語、コンピューター、化学と数学などの科目が開設されるようになった。しかし、全体的にみると、留学生向けの学士課程カリキュラムにおいて、中国語をはじめとする文科系科目が、他の専門分野の科目より大きなシェアを占めるという状況は、2000年まで基本的に変わらなかった(図2と図3)。

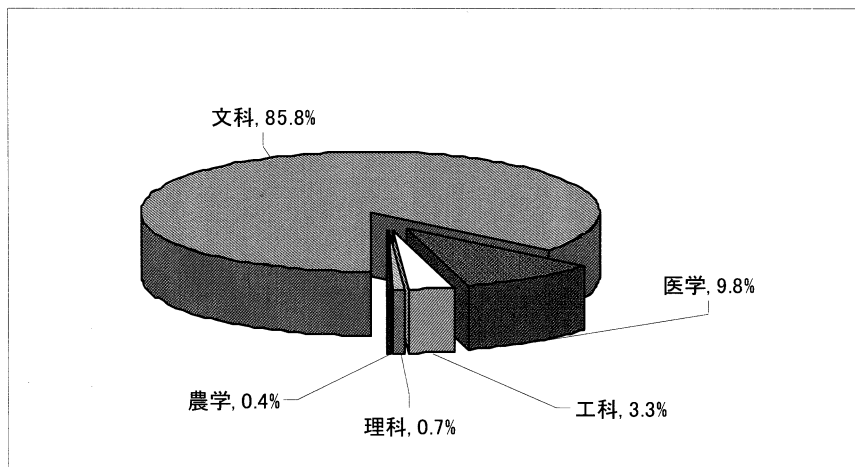
第4に、外国人留学生数が量的に拡大するにつれ、留学生向けのカリキュラムを提供する高等教育機関が次第に増加し、その教育実施組織にも変化が見られるようになった。具体的には、まず、図4に示したように、1990年から2000年までの10年間で留学生の受け入れ機関数が約120所から346所へとほぼ倍増した。それだけでなく、留学生向けのカリキュラムを担当する教育組織にも変化が

図2. 留学生の履修専攻比率(分野別), 1995年



出典：中国教育年鑑編輯部編『中国教育年鑑1996』，人民教育出版社，1997年，359頁。

図3. 留学生の履修専攻比率（分野別），2000年



出典：中国教育年鑑編輯部編『中国教育年鑑 2001』，人民教育出版社，2002年，282頁。

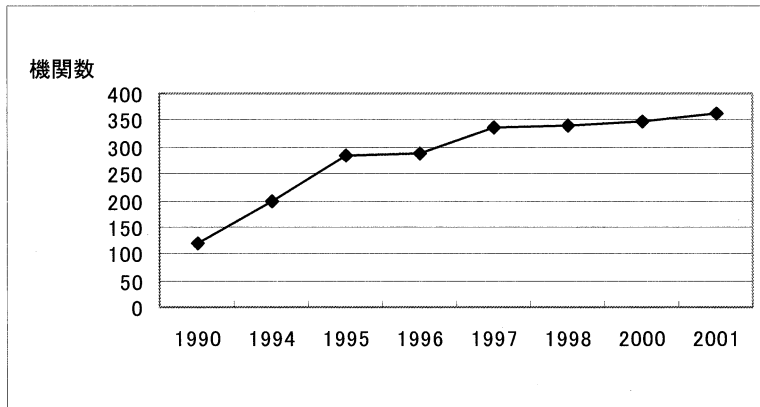
起きた。すなわち，当初，留学生教育は，中国語と関連科目教育を中心に，留学生に関する事務と教育を一体的に提供する組織—外国人留学生部や，研修部，センター—によって集中的に実施されていたのに対して，現在は，中国語と関連科目の教育を中心とする国際交流学院や国際文化交流学院などの教育組織が担当したり，学内の他学部が担当するようになった。つまり中国人学生と同じクラスで勉強する留学生が多くなったのである。例えば，復旦大学では1990年代まで，90%以上の留学生が学内の国際文化交流学院の漢語進修部と中国語言文化部に在学していたのに対して，2002年現在，35%の留学生が学内の各学部に所属し，他の分野の学位課程に在籍している⁹⁾。ただし，表1で明らかにしたように，大学によって，留学生に提供する学士課程の数がかなり異なっている。理工系の清華大学と上海交通大学において留学生を募集する学士課程カリキュラムの比率は，総合大学である北京大学と南京大学よりはるかに高く，機関の種類や専門分野が，留学生に提供するカリキュラムの開設数に影響を与えていると言ってよい。

表1. 主要大学における留学生向けカリキュラムの現状（2002年現在）

大学	学士課程カリキュラム	
	総数	全体に占める比率
北京大学	44	28.3
清華大学	38	82.6
南京大学	26	42.3
上海交通大学	48	87.2
同济大学	17	24.6

出典：<http://www.pku.edu.cn>，<http://www.tsinghua.edu.cn>，<http://www.nju.edu.cn>，<http://www.sie.sjtu.edu.cn>，<http://www.tongji.edu.cn>からのデータに基づいて作成した。

図4. 留学生を受け入れた大学数の推移



出典：中国教育年鑑編輯部『中国教育年鑑』1991,1995,1996,1997,1998,1999,2001各年版，人民教育出版社。また，<http://www.studyinchina.net.cn>からのデータに基づいて作成。

(2) 中国人学生向けのカリキュラムの国際化

1979年以降，教育部によって欧米大学の一部の教科書が中国語に翻訳され，中国大学への紹介が試みられたが，あまり大きな成果が上がっていない。しかし，1992年以降，市場経済原理が本格的に大学に導入されてきたのに伴い，大学にも大幅に権限が与えられ，特に，中国のWTO加盟（2001年）以降は，大学にとっていかに経済などのグローバル化に 대응し，国際的な人材を養成できるかが大きな課題である。こうした状況において，大学カリキュラムの国際化は中国における多くの大学の改革，国際化を実現する重要な戦略の一つである。ここでは，中国国内学生向けの国際化されたカリキュラムに関する種類，内容，分野，その編成のルート及び実施方法などについて検討してみたい。

第1に，国際化されたカリキュラムの類型と実態からみると，1990年代初期と比べて，近年多くの高等教育機関において，学士課程カリキュラムの国際化について様々な試みが実施されている。例えば，前述のOECD/CERIガイドラインにおける「国際化されたカリキュラム」の仮説的類型に基づいて，復旦大学における国際化されたカリキュラムの変化（表2）をみると，1990年と比較して，2002年における国際化されたカリキュラム数は全カリキュラム数に占める比率は依然20%に満たず，また多少減少しているものの（18.9%→17.1%），その絶対数は倍以上に増えている（213→479）。大学におけるカリキュラムの増減のうち，もっとも顕著なのは，(4)異文化間コミュニケーションの諸問題への対応や異文化間相互作用技能の訓練を目的とする外国語教育（英語）もしくは言語学のカリキュラムと，(5)複数地域をカバーする地域研究（area studies）・広域研究（regional studies）といった学際的カリキュラムの増加である。従って，分野別には，復旦大学における国際化されたカリキュラムはほとんどが言語学や人文，社会科学に関連した科目であると言ってよい。しかし，OECDの仮説における3番目のカリキュラムが減少したことで，6と7番目のカリキュラムがまったくみられていないことは，少なくとも近年，復旦大学においては，国際的専門職を目的として学

生を教育するカリキュラムや、国際的に認められた専門的職業資格取得のためのカリキュラム、また外国の大学と連携した学士レベルにおける合同学位・二重学位取得のカリキュラムは、あまり大きく発展していないことを示している。

表2. 復旦大学における国際化されたカリキュラムの変化

OECDによる主な仮説的類型	1990		2002			
	専攻	課程	専攻	増減数	課程	増減数
1	3	48	1	-2	53	+5
2	0	11	0	0	40	+29
3	3	37	1	-2	18	-19
4	4	89	6	+2	255	+166
5	0	28	0	0	113	+105
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0
8	0	0	1	+1	7	+6
合計	9	213	9	0	479	+266
全体に占める比率 (%)	14.5	18.9	14.3	-0.2	17.1	-1.8

出典：復旦大学教務処編『教学一覽 1990』、復旦大学教務処、1990年12月。復旦大学教務処組編『2002 本科教学培養方案』。http://www.software.fudan.edu.cn/htm/jiaoxuejihua02.htm

第2に、カリキュラムの編成という視点から考察してみると、学士課程カリキュラムの国際化を実現するために大学機関によって様々な試みが行われてきたが、多くの大学における国際化されたカリキュラムの編成方法をまとめると、主に次のような三つのパターンがある。

A. 自主型

自分の大学の伝統や現状に基づいて、現有の教員を中心に国際化されたカリキュラムを編成する。この場合は、外国語教育科目の増設や、従来からある科目に国際・比較接近法を加えることによって内容的に拡大された科目群を含むカリキュラムを開設する例が多い。多くの文系や総合大学及び一部の理工系大学は、外国語学部を設置・増設したり、あるいは専門的外国語科目を増やしたりすることを通じて、カリキュラムの国際化を目指している。

B. 協力型

外国大学・学部と共同で学位課程や相互に認められる科目などを編成・開設する。2002年8月現在、約15の中国の大学がアメリカ、カナダ、オーストラリア、オランダ及び香港などの国・地域における10以上の大学と共同で学士学位教育カリキュラムを提供している¹⁰⁾。外国の大学と連携して学位プログラム (degree-conferring program) を開設した大学は、ほとんど有名な理工系、農業、経済系の専門性が高い高等教育機関であった。また、こうした機関では、国際経済や商務管理、コンピューターと機械工程などの専攻が多かった。

C. 導入型

このパターンはさらに人的な導入と教科書の導入に分けられる。前者は、海外で留学や研究を行った経験のある留学生や学者を自分の大学に招聘し、国際化されたカリキュラムを編成する。後者は、主に、外国の大学において用いられている教科書などを購入・導入し、図書館やクラスで使用することである。例えば、2002年から、北京大学、清華大学をはじめ、多くの重点大学が既にアメリカ

のハーバード大学、エール大学、MITなどで用いられている大学教科書を購入してきた¹¹⁾。しかし、こうした措置は数少ない重点大学に限られており、また、導入される教科書は、基本的には情報技術、生物技術、新材料技術、国際金融、法律及び中国にとっての重点分野の教科書の導入のみ認められると規定されている¹²⁾。

3. 国際化されたカリキュラムの特徴と類型

1990年代以来、中国における学士課程カリキュラムの国際化の特徴として、以下のような3点が挙げられる。

第1に、留学生向けの科目履修対象について、地域・国別には、東アジア諸国、特に日本と韓国からの留学生を中心に教育が行われている。また一部の重点大学を除き、例えば北京大学や清華大学など、多くの大学において留学生のために設けられた施設と共に、中国人学生と同じ学部・クラスで、主に中国語をはじめとする文科系科目の学士課程教育も実施されている。

第2に、それ以外に、大学全体の学士課程カリキュラムの国際化について、各大学によって多少異なるものの、様々な試みを実施されている。そのうち、外国の大学と合同学位プログラムを開設したり、単位を交換したり、大規模に外国の有名大学の教科書を導入したりする一方、主に英語をはじめとした外国語教育プログラム、地域研究及び従来の科目に比較的・国際的な科目を加えたようなカリキュラムを増設することも行われている。こうした方法で、学士課程カリキュラムの国際化が急速に進められている。

第3に、科目開設数、学位履修人数の比率と留学生教育科目を提供する機関数の変化からみると、留学生向けのカリキュラムの国際化が量的には大きく発展してきた一方、学士課程カリキュラムを履修する留学生の比率も次第に増えてきた。しかし、留学生の出身国、履修分野の構成からみると、基本的には変わっていない。さらに、機関の特徴が留学生を対象とするカリキュラムの開設数や専門分野の構成などにインパクトを与えると考える。

以上の考察に基づいて、中国における学士課程カリキュラムの国際化について以下のような特徴をまとめることができる。すなわち、学士課程カリキュラムの国際化に関する政策や実施などにおいて、まず、留学生に開設する科目には多少制限があり、大学によって違うが、学士課程カリキュラム教育が留学生と中国人学生を区別して行われており、中国語や中国史・文化に関する科目も大きなシェアを占める一方、中国人学生向けの科目は、外国の教科書や参考資料を導入することを通して、管理学や経済学などの実用性が高いものが増えており、英語やバイリングによるカリキュラムの開発も注目されている¹³⁾。具体的には、以下の表3のように表すことができる。

4. 残された課題

以上、考察したように、中国における学士課程カリキュラムの国際化は、10年ほど前と比べて、英語をはじめとする語学や人文、社会科学に関連した科目が量的に増加し、これらの担当機関数の

表3. 中国における学士課程カリキュラムの国際化の特徴

区分	外国人留学生	自国学生
国際化の誘因	文化的・学術的	学術的
履修目的	ホスト国の言葉の修得やその文化に対する理解	先進国の科学や技術の学習
履修分野	留学先国の言語や文化をはじめとする文科系の科目が多い	経済、管理、コンピューターと理工系の科目が多い
教育担当組織	特に設けた施設	所属専門学部
教授法	系統的なカリキュラム以外、見学や訪問調査等が多い	系統的なカリキュラムに沿って実施
教授語	ホスト国の言葉が中心	自国語が中心

上でも大きく発展したが、国際的に認められる科目や国際的な専門職に関する科目の開設、特に大学院レベルにおける留学生向けの文科系以外の専門科目はまだ少ないと言える。今後、中国における学士課程カリキュラムの国際化がさらに進められるには、こうした側面の努力が欠かせないのではないと思われる。

付記：本稿は平成15年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））『グローバル化の進展に伴う学士・大学院課程カリキュラムの国際化に関する比較研究』による研究成果の一部である。

【注】

- 1) De Wit, H. (2002) *Internationalization of Higher Education in the United States of America and Europe - A Historical, Comparative, and Conceptual Analysis*, Westport, Conn.: Greenwood Press.
黄 福涛 (2002) 「高等教育の国際化に関する研究の展開—比較的な視点」『大学論集』第32集, 広島大学高等教育研究開発センター, 29-41頁。
- 2) OECD Documents (1996) *Internationalisation of Higher Education*, Paris: OECD, p.48.
江淵一公 (1997) 『大学国際化の研究』玉川大学出版部, 227頁。
- 3) van der Wende, M. C. (1996) *Internationalizing the Curriculum in Dutch Higher Education: an International Comparative Perspective*, The Hague, University Utrecht.
- 4) 于 富増, 江 波, 朱 小玉 (2001) 『教育国際交流与合作史』海南出版社, 28-29頁。
- 5) 中国教育年鑑編輯部編 (1992) 『中国教育年鑑1991』人民教育出版社, 387頁。
- 6) 中国教育年鑑編輯部編 (2002) 『中国教育年鑑2001』人民教育出版社, 282頁。
- 7) 中国教育年鑑編輯部編 (1996) 『中国教育年鑑1995』人民教育出版社, 284-285頁。
- 8) 中国教育年鑑編輯部編, 前掲統計。
- 9) 復旦大学外事処2002年年報, 36頁。
- 10) 『中国教育報』2002年9月4日第5版。
- 11) 『中国青年報』2002年5月13日第3版。

- 12) 『中国教育報』2001年9月22日第1版。
- 13) Huang, F. (2004) 'Internationalization of Curricula in Higher Education Institutions in Comparative Perspectives: Case Studies of China, Japan and The Netherlands', *Higher Education*, 2005 (forthcoming).

Internationalization of University Curriculum: Case Study of the Chinese Universities

Futao HUANG*

This paper is mainly concerned with the internationalization of university curriculums in Chinese universities since the 1990s by using the relevant definition and typology established by OECD in 1996. Based on related official data and interviews conducted in several Chinese universities, the analysis focuses on two different types of internationalized curriculums: programs for international students and for local students. On the one hand, the number of degree-conferring programs specifically designated for international students, mostly in humanities and arts, such as Chinese language, history or Chinese medicine, have greatly increased over the decade; on the other hand, the number of programs in foreign languages or linguistics, especially in English language, and interdisciplinary programs such as regional and area studies as well as English-taught programs for local students, has also grown strikingly. However, compared with the Netherlands and Japan, there are fewer professional programs at a graduate level offered for international students and programs leading to internationally recognized professional qualifications provided for local students in Chinese universities.

* Associate Professor, R.I.H.E., Hiroshima University